

2007.5.21.

平成18年度(19年3月期)決算の概要



株式会社 大光銀行

目 次

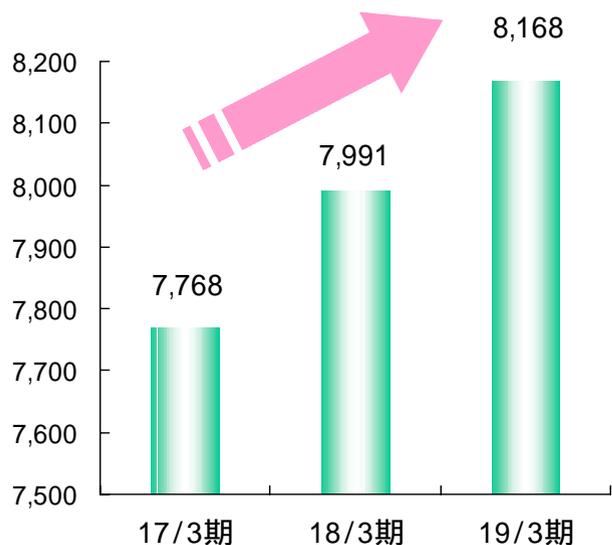
- 1 . 貸 出 金
- 2 . 預 金 ・ 預 け 資 産
- 3 . 収 益
 - (1) 業 務 純 益
 - (2) 経 費
 - (3) 経 常 利 益
 - (4) 当 期 純 利 益
- 4 . 不 良 債 権
- 5 . 自 己 資 本 比 率
- 6 . 繰 延 税 金 資 産 (単 体)
- 7 . 業 績 予 想

1. 貸出金

貸出金残高は前年同期比176億円(2.21%)増加し、8,168億円。

事業者向け貸出は前年同期比141億円(2.80%)増加、地公体向け貸出は同20億円(4.22%)増加、個人向け貸出は同15億円(0.62%)増加、中でも住宅ローンは61億円(2.87%)の増加。

貸出金残高推移(単位:億円)



(単位:億円)

項目	19年3月期 (A)	18年3月期 (B)	前年同期比 (A-B)
貸出金残高	8,168	7,991	176
事業者向け	5,174	5,032	141
地公体向け	503	483	20
個人向け	2,490	2,475	15
うち住宅ローン	2,198	2,136	61

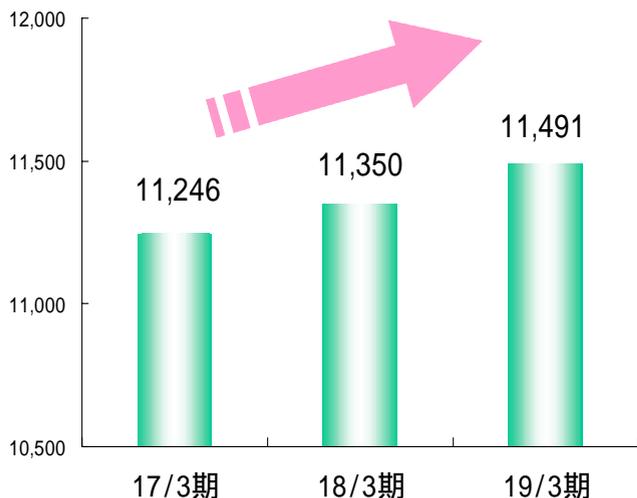
2. 預金・預り資産

預金残高は前年同期比140億円(1.24%)増加し、1兆1,491億円。

預り資産は前年同期比307億円(39.05%)増加し、1,095億円。

投資信託、公共債の増加に加え、生命保険、外貨預金も順調に増加。

預金残高推移 (単位：億円)



(単位：億円)

項目	19年3月期 (A)	18年3月期 (B)	前年同期比 (A - B)
預金残高	11,491	11,350	140
個人	8,461	8,479	18
法人・地公体・金融機関	3,029	2,870	159

(単位：億円)

項目	19年3月期 (A)	18年3月期 (B)	前年同期比 (A - B)
預り資産残高	1,095	787	307
公共債	442	339	102
投資信託	519	380	139
生命保険	111	64	47
外貨預金	21	3	18

3. 収益

(1) 業務純益

預金金利の上昇により預貸差利益が減少したものの、これを上回る有価証券利息等の増加により、資金利益が前年同期比4億2千8百万円増加。

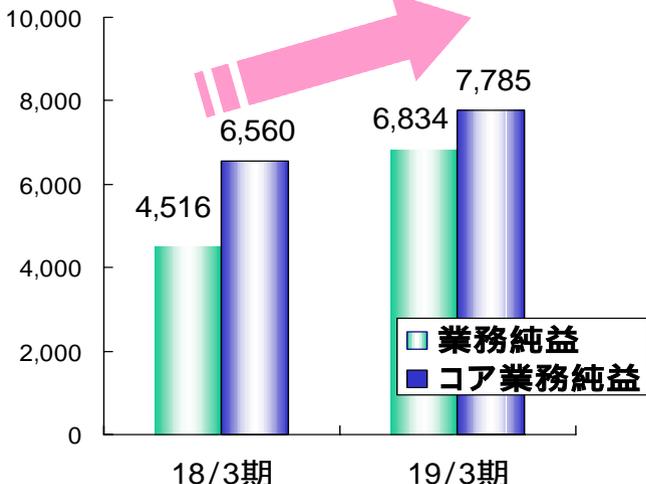
このほか、一般貸倒引当金純繰入額の減少や、預り資産の増加に伴う役務取引等利益の増加、人件費・物件費等経費の減少により、業務純益は前年同期比23億1千8百万円増加し、68億3千4百万円。

コア業務純益は前年同期比12億2千5百万円増加し、77億8千5百万円。

(単位：百万円)

項目	19年3月期 (A)	18年3月期 (B)	前年同期比 (A - B)
業務純益	6,834	4,516	2,318
コア業務純益	7,785	6,560	1,225

業務純益推移 (単位：百万円)



業務純益の主な変動要因

・増益要因 (単位：百万円)

項目	前年同期比
資金利益	428
一般貸倒引当金純繰入	1,932
役務取引等利益	242
経費	600

・減益要因 (単位：百万円)

項目	前年同期比
国債等債券損益	838

資金利益の増減内訳 (単位：百万円)

項目	前年同期比
預貸差利益 (-)	517
貸出金利息	214
預金利息	731
有価証券利息等	945
資金利益 +	428

(2)経費

人員計画に基づく行員数の減少により、人件費は前年同期比2億2千3百万円減少。経費全体では6億円減少。

新システムへの移行に伴う一時的な費用(18年3月期に計上)が減少し、物件費は前年同期比2億6千2百万円減少。

今後もローコスト経営を目指し、経費の効率化・合理化を図る。

(単位：百万円)

項目	19年3月期 (A)	18年3月期 (B)	前年同期比 (A-B)
経費	13,905	14,505	600
うち人件費	7,893	8,116	223
うち物件費	5,387	5,649	262

人員計画

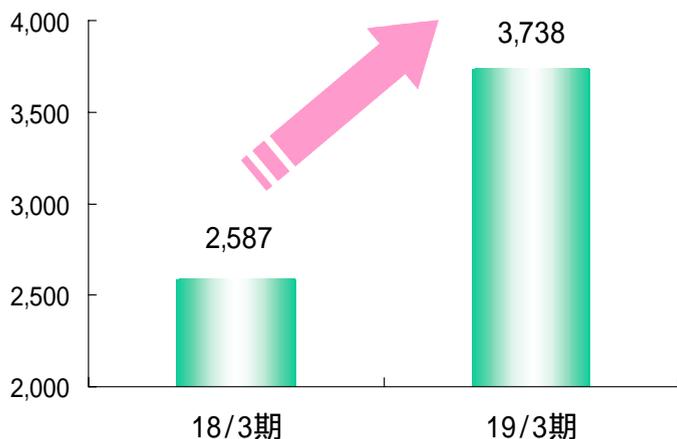
	18年3月末 実績	19年3月末 実績	20年3月末 計画
行員数	1,037名	1,010名	990名

(3) 経常利益

臨時費用としての不良債権処理費用が16億1千5百万円増加(注)したが、業務純益が前年同期比23億1千8百万円増加したことを受け、経常利益は11億5千1百万円の増加。

(注)一般貸倒引当金純繰入額も含めた広義の不良債権処理費用は、3億1千8百万円減少。

経常利益推移 (単位：百万円)



(単位：百万円)

項目	19年3月期 (A)	18年3月期 (B)	前年同期比 (A-B)
経常利益	3,738	2,587	1,151

主な増益要因

(単位：百万円)

項目	19年3月期 (A)	18年3月期 (B)	前年同期比 (A-B)
業務純益	6,834	4,516	2,318

主な減益要因

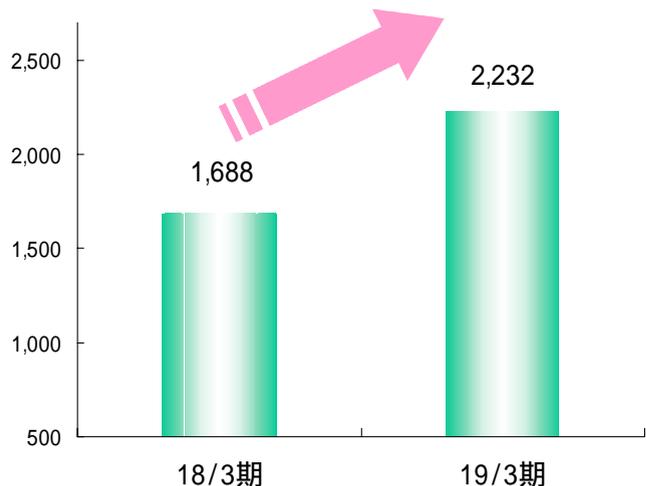
(単位：百万円)

項目	19年3月期 (A)	18年3月期 (B)	前年同期比 (A-B)
不良債権処理額	2,873	1,258	1,615

(4) 当期純利益

経常利益が11億5千1百万円増加したが、法人税等が6億7千7百万円増加し、当期純利益は前年同期比5億4千4百万円増加の22億3千2百万円。

当期純利益推移 (単位：百万円)



(単位：百万円)

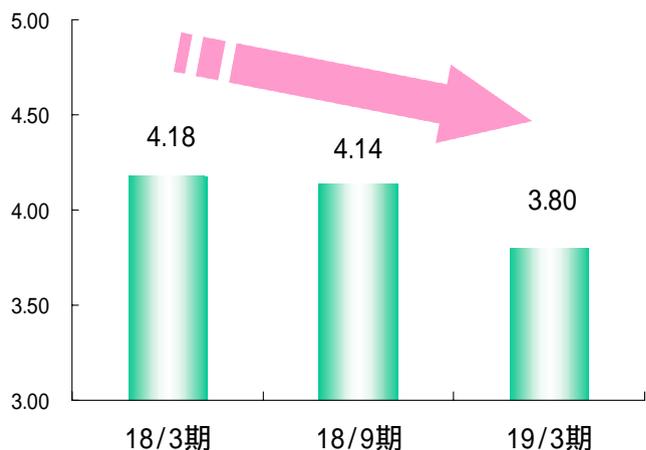
項目	19年3月期 (A)	18年3月期 (B)	前年同期比 (A - B)
(資金利益)	(21,037)	(20,609)	(428)
業務純益	6,834	4,516	2,318
経常利益	3,738	2,587	1,151
(経常収益)	(27,002)	(24,141)	(2,861)
(経常費用)	(23,264)	(21,553)	(1,711)
特別損益	8	213	221
税引前当期純利益	3,730	2,800	930
法人税、住民税及び事業税	699	22	677
法人税等調整額	798	1,089	291
当期純利益	2,232	1,688	544

4. 不良債権

企業再生支援および償却・債権売却等によるオフバランス化により、不良債権額は前年同期比21億1千2百万円減少し、315億3千2百万円。

不良債権比率は前年同期比0.38%、18年9月期比0.34%改善して3.80%。

不良債権比率推移 (単位: %)



(単位: 百万円)

項目	19年3月期	18年3月期比	18年3月期	18年9月期 (参考)
	金融再生法開示債権			
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	9,500	100	9,400	8,822
破綻先債権	1,536	574	2,110	2,037
実質破綻先債権	7,964	674	7,290	6,784
危険債権	17,385	1,336	18,721	19,996
要管理債権	4,646	876	5,522	4,458
小計(A)	31,532	2,112	33,644	33,276
正常債権	798,791	28,219	770,572	770,838
債権額合計(B)	830,324	26,108	804,216	804,115
不良債権比率(A/B)	3.80%	0.38%	4.18%	4.14%

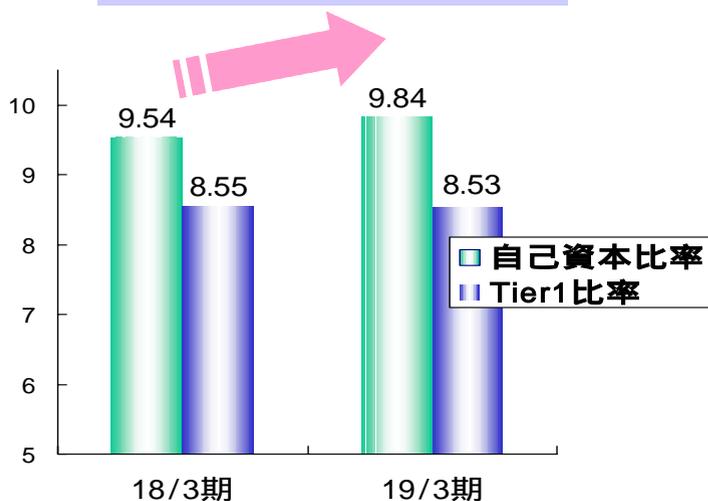
5. 自己資本比率

新BIS基準での自己資本比率は連結・単体とも9.84%。

旧基準では、連結9.87%、単体9.86%となり、ともに前年同期比0.33%上昇。貸出金等の増加によりリスク・アセットが連結・単体とも増加したものの、利益計上等による自己資本の増加率がこれを上回ったことによる。

Tier 比率は連結・単体とも8.53%で、十分な水準を維持。

連結自己資本比率推移 (単位: %)



(単位: 百万円)

項目	19年3月期 (新BIS基準) (速報値)	18年3月期比	18年3月期 (旧基準)	参考 19年3月期 (旧基準)
	連結自己資本比率	9.84%	0.30%	9.54%
連結Tier比率	8.53%	0.02%	8.55%	8.55%
連結自己資本	59,893	2,493	57,400	59,881
連結リスクアセット	608,540	6,905	601,635	606,661
単体自己資本比率	9.84%	0.31%	9.53%	9.86%
単体Tier比率	8.53%	0.01%	8.54%	8.54%
単体自己資本	59,739	2,498	57,265	59,732
単体リスクアセット	606,775	6,082	600,693	605,683

6. 繰延税金資産(単体)

繰延税金資産は、不良債権の償却・債権売却等のオフバランス化による有税貸倒引当金の減少やその他有価証券の評価差額にかかる繰延税金負債の増加により、前年同期比16億8千6百万円減少し、21億1千4百万円。

繰延税金資産の自己資本(Tier)に占める割合は、前年同期比3.32%減少し、4.08%。

(単位：百万円)

項目	19年3月期 (A)	18年3月期 (B)	前年同期比 (A-B)
繰延税金資産 (A)	2,114	3,800	1,686
自己資本(Tier) (B)	51,781	51,326	455
(A) / (B) × 100	4.08%	7.40%	3.32%

7. 業績予想

(単位：百万円)

項目	通 期 (20 年 3 月 期)	
	連 結	うち単体
経 常 収 益	26,900	26,300
(業 務 純 益)		7,000
経 常 利 益	4,360	4,320
当 期 純 利 益	2,350	2,330

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものであり、経営環境の変化等により計画または予想の数値と異なる可能性があります。

(付)会社説明会のご案内

頭取が営業概況・戦略について説明します。

会 場	日 時	開 催 場 所
長岡会場	5月28日(月) 16:00~18:00 6月 7日(木) 16:00~18:00	長岡グランドホテル 2階「悠久の間」 長岡市東坂之上町1丁目2番地1 (0258-33-2111)
新潟会場	5月30日(水) 16:00~18:00 6月 4日(月) 16:00~18:00	ホテル新潟 2階「芙蓉の間」 新潟市中央区万代5丁目11番20号 (025-245-3334)
三条・燕会場	6月 1日(金) 16:00~18:00	燕三条ワシントンホテル3階「錦の間」 燕市井土巻3丁目65番地 (0256-66-2000)
下越会場	6月 8日(金) 16:00~18:00	ホテル華鳳 コンベンションホール「黎明」 新発田市月岡温泉 (0254-32-1515)